

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	大阪府・南河内郡河南町	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	河南町文化遺産を活かした地域活性化事業		
4 実施計画期間	平成 25 年度 ～ 平成 30 年度		
5 実施計画の概要			
<p>河南町第四次総合計画（平成22年策定）を踏まえ、伝統行事の継承、歴史的資源を活用して地域活性化を推進するため、地区ごとに以下の取り組みを実施する。</p> <p>また、計画期間中、以下の取り組みを通じて、行政と民間団体の連携・協力体制の組織化を目指す。</p> <p>(1) 祭礼に関する総合的な保存継承事業 (2) 山車（地車）劣化部分・化粧幕等の復元修復および公開事業 (3) 映像記録事業</p> <p>※河南町第四次総合計画 (http://www.town.kanan.osaka.jp/choseijoho/sogokeikaku/1394777110362.html)</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については、河南町教育委員会が全体計画の企画、調整、事業の指導を行う。</p> <p>担当課 教育委員会教・育部教育課：全体の調整、指導</p> <p>また、事業の実施については、次の団体が実施。</p> <p>各地区秋の例大祭保存継承実行委員会 構成団体（各地区地車保存会、各地区自治会、各地区青年団等）</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 33,101 千円	平成29年度要望額： 6,750 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>地域的にまとまって分布する石川型地車を維持し、祭礼技術、修復に要する技術を全体として保存継承することができる。また地域住民自らが事業を行うことによって、地域にある伝統行事や文化財（地車）の存在と価値を再認識し、地車曳行行事の発展的継承が可能である。地車曳行行事は、もともと地域の世代間交流や地縁的まとまりを醸成するものであったが、地区外を含めたより多くの人達の参加や地元への若者の定着が期待でき、地域の活性化を推進することができる。加えて行政と地域団体の協力体制、地域団体同士のつながりを構築することによって、地域コミュニティの維持や活性化に寄与することが可能である。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
<p>本事業の実施を契機として、町の文化遺産に対する関心や意識が向上し、その保存や活用に関する地域の機運を醸成する。また構築された協力体制をもとに、事業実施後の地域の文化遺産の悉皆調査に対する地域の協力を得るための基盤とする。</p>			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	河南町教育委員会事務局 教・育部教育課		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の祭礼行事等への入込客数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	秋の例大祭宮入行事の参加者数	関連事業:		① ② ③		
目標値 1 :	平成 25 年度 1,800 (人)		⇒		平成 30 年度 4,000 (人)	
設定根拠 1 :	復元改修を終えた地車は各地区の誇りでもあり、参加者や見物客を増やすことにつながる。平成28年11月に行われた、町制60周年記念行事の「だんじりパレード」の際には、町の呼びかけに応じて各地の実行委員会が統一組織化された。パレードの参加者及び見物客は12,000人を超え、このように秋の例大祭宮入行事についても、年々参加者が増加し、平成30年は復元改修を始めた25年と比して倍増が見込める。					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
目標区分 2 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 2 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	後継者の人数	関連事業:		① ②		
目標値 2 :	平成 25 年度 54.0 (人)		⇒		平成 30 年度 72.0 (人)	
設定根拠 2 :	毎年、1地区(全18地区)3人ずつ新しく伝統的祭礼行事を継承していた。その継承者をもう1人増やし、4人×18地区72人とする。					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	河南町における保存継承団体の構成員の人数	関連事業:		① ②		
目標値 3 :	平成 25 年度 360 人		⇒		平成 30 年度 450 人	
設定根拠 3 :	現在1地区あたり、保存会などの構成員20人の所、会員数を5人を増やす。					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
	0	0	0	0	0	

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	長坂地区秋の例大祭保存継承事業	実施団体：	長坂地区秋の例大祭保存継承実行委員会			
事業区分：	用具等整備	事業期間：	平成 25 年度	～	平成 30 年度	
事業概要：	長坂地区に継承されてきた山車や刺繍幕は経年劣化のため損傷が著しい。既存形式・寸法を踏襲して復元修復を行い、地域の文化財や伝統行事である秋の例大祭を継承する。					
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数	(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：	長坂地区の秋の例大祭参加人数					
目標値：	平成 25 年度	長坂地区120 人	⇒	平成 30 年度	長坂地区180 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
人	人	人	人	人	人	
事業②：	長坂地長坂地区秋の例大祭後継者育成事業	実施団体：	長坂地区秋の例大祭保存継承実行委員会			
事業区分：	後継者養成	事業期間：	平成 25 年度	～	平成 30 年度	
事業概要：	小学校高学年から高校生の青少年を対象に、秋の例大祭について、その伝統や意義、具体的な鳴り物技術、俄芝居等を伝承する講座を実施するとともに、山車の体験曳行を行う。					
評価指標区分：	・祭礼行事への参加住民数	(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：	長坂地区で、秋の例大祭に参加する小学校高学年から青少年の参加人数					
目標値：	平成 26 年度	10.0 (人)	⇒	平成 30 年度	15.0 (人)	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
0.9 (人)	1.2 (人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
事業③：	長坂地区山車及び刺繍幕復元修復記録事業	実施団体：	長坂地区秋の例大祭保存継承実行委員会			
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 25 年度	～	平成 30 年度	
事業概要：	祭礼状況、山車及び刺繍幕の復元修復の工程を映像記録としてDVDに記録する。毎年地区での上映会を実施するとともに、DVDを町教育施設のほか、大阪府内の主要図書館に配布する。					
評価指標区分：	・記録映像の貸し出し(又は利用)回数等	(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：	事業実施地区で行う上映会の参加人数					
目標値：	平成 25 年度	0 (人)	⇒	平成 30 年度	500 (人)	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	